

令和 6 年度
木の国・山の国県民会議
各専門部会の取組状況

令和6年度専門部会の取組状況

部会名	森づくり部会	担	森林経営課
部会長	篠田 成郎	当	整備係
構成員 (所属名)	篠田 成郎 <部会長> (岐阜大学教授) 長瀬 雅彦 <副部会長> (一般社団法人名古屋林業土木協会副会長) 伊藤 栄一 (森のなりわい研究所代表) 加藤 恵子 (一般財団法人岐阜県地域女性団体協議会副会長) 駒瀬 勉 (岐阜森林管理署長) 高橋 知樹 (一般社団法人岐阜県森林施業協会副会長) 古川 昌樹 (一般社団法人岐阜県林業経営者協会青壮年部 副部会長) 山川 弘保 (林業家、郡上市長)		
今年度 計画	1 令和6年度検討事項 ・森づくりを推進する上での課題と今後の新たな対応方針の検討		
	2 検討事項の具体的取組 ・意見交換や現地検討会の実施		
実施 状況	3 取組状況 ■第1回(令和6年9月30日(月)) ○令和6年度の検討テーマについて意見交換 ※オンライン併用開催 ・これまでの森づくり部会の取組みを振り返るとともに、現在の森づくりの課題(境界明確化、担い手、ニホンジカ対策)を踏まえた意見交換を実施 <div> 【主な意見】 ・実際に造林に取り組む中で、境界明確化、ニホンジカ対策が大きな支障となっている。 ・基本的に山の境界明確化は不要。境界明確化の予算を共有的管理に戻すという作業に投じてはどうか。 ・ニホンジカ対策は頭数調整が必要。施策を精査し、捕獲に予算を振り分けるべき。 </div>		
	■第2回(令和6年11月8日(金)) ○育成複層林施業や広葉樹施業の取組み事例を現地視察(美濃市、加茂郡川辺町地内) ・育成複層林施業やブロックディフェンスの取組み(森林整備センター) ・シイタケ原木生産を目的とした広葉樹施業の取組み(環の森) ■第3回(令和7年2月27日(木)) ○森づくり部会からの提言に関する意見交換 ・新潟県中越よつば森林組合の森林集約化の取組み事例(施業地内部の境界明確化を実施せず、面積按分による収益配分を実施等)等を参考に、森林整備を推進できる新たな事業地の集約方法や管理方法等について意見交換を実施 <div> 【主な意見】 ・市町村の支援する協議会等がプランナーを擁した上で森林所有者の合意を取り付け事業地を集約し、その事業地を林業事業体を買受け、主伐・再造林等の森林整備を実施する。将来的にはプランナー業務と現場作業の分離が望ましいのではないかと。 ・所有者不明森林は、森林経営管理制度を活用し市町村が経営管理権を設定。 ・新たな事業地集約の取組みは森林経営計画とのすみ分けが必要。 </div>		
今後の 課題	4 取組結果 ※別添資料のとおり		
	5 今後の課題 ○提言内容を具体化するためのモデル事業地の設定 ○提言内容を具体的に進めるための制度的課題等の検討		

新共同・集約化森林（革新的な共同森林経営管理）

森づくりの課題

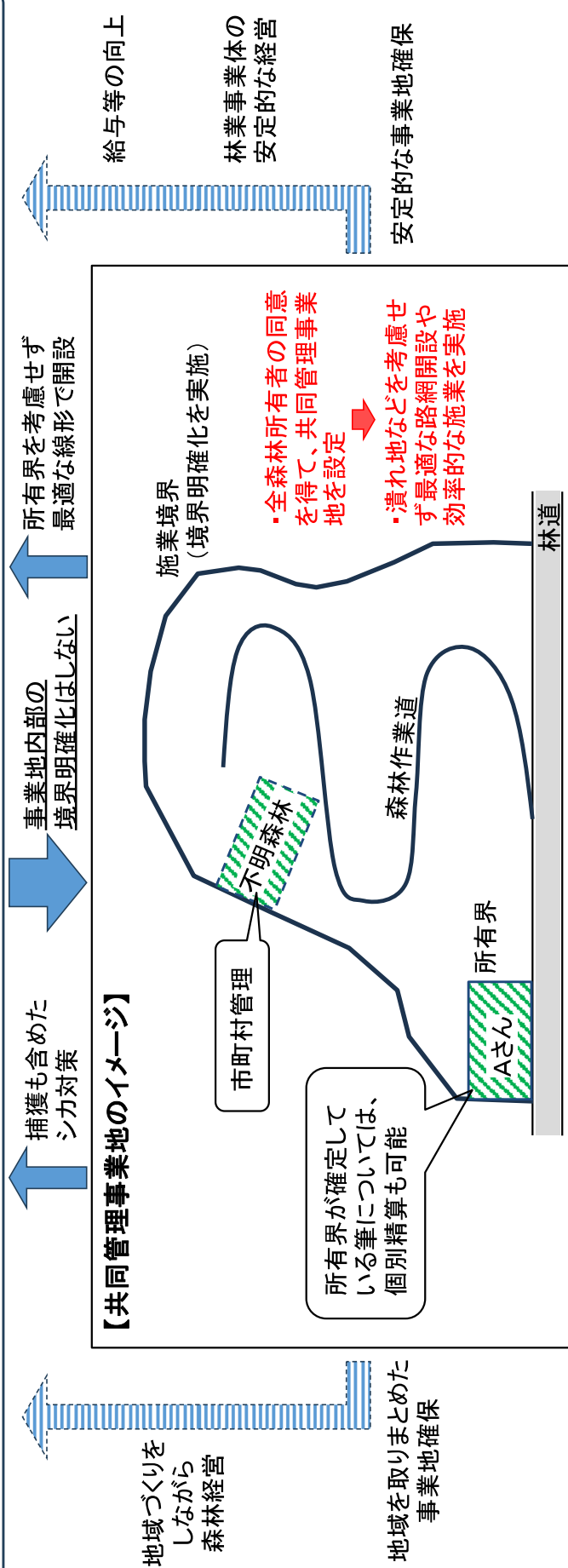
所有者の意識向上

二ホンジカ対策

境界明確化

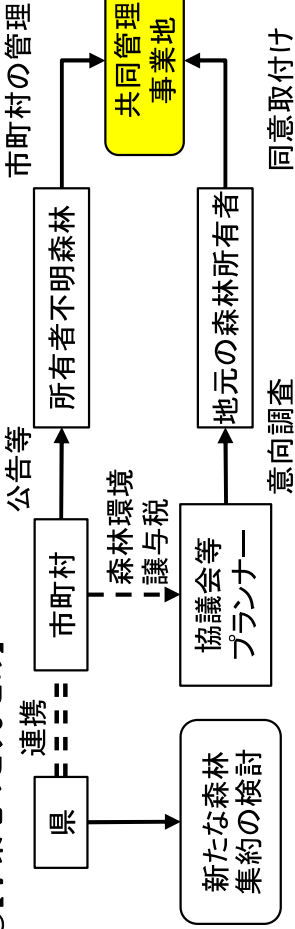
路網整備（林道、作業道）

担い手の確保・定着

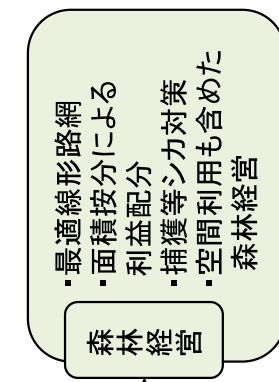


◆プロジェクトフロー

①【事業地のとりまとめ】



②【事業地での森林経営管理】



【今後の課題】 プロジェクトを具体化するためのモデル事業地の設定、制度的課題等の検討

令和6年度専門部会の取組状況

部 会 名	木づかい部会	担 当	県産材流通課
部 会 長	中島由紀子	担 当	木造建築推進室消費対策係
構 成 員 (所属名)	中島 由紀子 <部会長> (NPO法人グッドライフ・サポートセンター理事長) 田口 房国 <副部会長> (株式会社山共 代表取締役社長) 石橋 明世 (ひだまりほーむ 株式会社鷺見製材 専務取締役) 岩井 香織 ((公社) 岐阜県森林公社 森のジョブステーションぎふ 担い手支援員) 岡田 利里 ((公社) 岐阜県建築士会女性委員会 委員長) 杉江 智子 (岐阜県生活学校連絡協議会 書記) 吉田 香央里 (ヤマガタヤ産業株式会社 取締役)		
今年 度計 画	1 R6年度検討事項 ・新たな県産材のPR方法について		
	2 検討事項の具体的取組み ・大人に向けたアプローチ方法の検討		
実施 状況	3 取組状況 ■第1回(令和6年10月22日(火))岐阜県庁20階 2003会議室 ○令和6年度「ぎふの木づかい施設」の認定について ○岐阜県木の国・山の国県産材利用推進計画 令和5年度施策の実施状況について ○令和5年度木づかい部会での提案等を踏まえた県産材流通課の取組みについて ○今年度の木づかい部会の取組みについて 【主な意見】 <岐阜県木の国・山の国県産材利用推進計画 令和5年度施策の実施状況について> ・令和5年度の内装木質化実績に、壁、床、天井どこが木質化されたのか追記してはどうか。 ・県産材住宅の目標値は、人口減少等の社会情勢に合わせた見直しが必要ではないか。 <今年度の木づかい部会の取組みについて> 県産材を活用した非住宅建築物のモデル的なところを視察し、県民目線での提案を考えたい。		
	■現地視察(令和7年1月20日(月))可児市、土岐市内 非住宅建築物の木造化、内装木質化事例の視察 <視察先> ・CO-A VILLAGE(可児市) ・住ま居るメディカ土岐(土岐市) ・トキ工芸社屋兼作業所(土岐市)		
	■第2回(令和7年3月11日(火))岐阜県庁20階 2004会議室 ○今年度の木づかい部会の取組み実績について ○第1回木づかい部会での意見に対する対応について ○木づかい部会現地視察の振り返り及び意見交換 ○令和7年度木づかい部会の取組み方針について 【主な意見】 <第1回木づかい部会での意見に対する対応> ・学校等で県産材を使っても、樹種や産地が分かるようになっていないと、施設の利用者は県産材が使われていることが分からないため、分かりやすく親しみの持てる看板を設置するようにしてはどうか。 ・岐阜市内にマンションがたくさん建ってきているので、マンションのオーナー等に対する県産材使用促進のためのレクチャーが必要ではないか。 <木づかい部会現地視察の振り返り及び意見交換> ・節を活かしたり、構造材をそのまま見せられるところは木造化、木質化の魅力と感じた。 ・現地視察で説明のあったような工務店等の自社努力などをPRポイントとできないか。		

	<p>4 取組結果</p> <p>＜大人に向けたアプローチ方法の検討＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般の方はもとより、木材関係者でも知らない制度や施策があるので、大人に向けたアプローチとして、「木づかい」に関する広報不足の解消、PR方法の改善が必要ではないか。 ・目先のコストではなく、環境のために長い目で考えて木を使う必要があることを伝えることが重要ではないか。 <p>＜その他＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産材を使用した11施設を「ぎふの木づかい施設」として認定した。
今後の課題	<p>5 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木づかい施策に関する広報不足の解消とPR方法の改善が必要。 ・広報不足の解消については、木づかい支援施策を網羅している「ぎふ木造建築ポータル」を紹介するため、関係機関の協働による、手に取ってもらいやすい「冊子」の制作等の取り組みが必要。 ・PR方法の改善については、業界と行政の協働により、「木づかい施設」において「樹種名」「樹種別適材適所」「CO2貯蔵量」などを表示して、地域の資源や地球環境について考えてもらうきっかけにするなど、県民に木づかいへの興味・関心も持ってもらえるような仕掛けづくりが必要。また、多くの情報の中から必要とする人が求める情報にアクセスしやすい仕組みづくりが必要。

令和6年度専門部会の取組状況

部 会 名	普及・教育部会	担 当	森林活用推進課
部 会 長	伊藤 栄一	担 当	森林サービス産業支援係
構 成 員 (所属名)	石橋 明世（ひだまりほーむ 株式会社鷺見製材 専務取締役） 伊藤 栄一（森のなりわい研究所 代表） 加藤 恵子（（一財）岐阜県地域女性団体協議会 会員） 加藤 正吾（岐阜大学応用生物科学部 准教授） 田口 弥生子（公募委員） 中島 由紀子（NPO法人グッドライフ・サポートセンター 理事長） 中村 美雪（岐阜県小中学校女性校長会長） 古川 昌樹（（一社）岐阜県林業経営者協会 会員） 細川 正孝（加子母森林組合 代表理事組合長） 安田 裕樹（岐阜信用金庫 ソリューション営業課長） 山川 弘保（郡上市長）		
今 年 度 計 画	1 令和6年度検討事項 第1回「ぎふ森フェスについて」 「ぎふ木育の全県展開について」 第2回「森林サービス産業事業地及び木育施設の視察」 第3回「森林サービス産業の振興について」 「ぎふ木育の全県展開の取組みについて」 <hr/> 2 検討事項の具体的取組み ・ぎふ木遊館サテライト施設整備等のぎふ木育の全県展開に向けた取組みについて意見をいただく。 ・県及びぎふ森のある暮らし推進協議会の森林サービス産業の取組みについて意見をいただく。		
実 施 状 況	3 取組状況 ■第1回（令和6年10月9日（水）） 議題：「ぎふ森フェスについて」 「ぎふ木育の全県展開について」（森林活用推進課） 【主な意見】 <div> 「ぎふ森フェスについて」 ・森フェスについて、関係者は知っていても民間へ知られていない。良いものを作っているのに、一般の人々に広報する手段があるとよい。 ・魅力的なプログラムを集めれば全国から参加者がくる。プログラムを並べる際、地域別ではなくカテゴリー別に分けた方が効果的だと感じる ・収益を上げる条件が整っていれば林業だけでなく、森林サービス産業をやりたい人が集まる山ができ、所有者の山の価値が上がる可能性がある。 </div> <div> 「ぎふ木育の全県展開について」 ・ひだ木遊館について、子どもをメイン層としているが大人も楽しめる施設としなくても大丈夫か。児童館のような施設になってしまわないか。 ・木育の形は「ぎふ木遊館」の拠点施設だけではない。今求められているものは子どもが木に触れてもらうこと。そこに一緒にくる親にも木に触れてもらうという形で良いと思う。 ・山側との繋がりについての仕掛けが重要。木の産地の解説など、そこから産地を見に行くという動線、ツアーが作れたら面白いし、森林サービス産業と木育が繋がる。 </div> ■第2回（令和6年11月18日（月）） 議題：「森林サービス産業事業地及び木育施設の視察」（森林活用推進課） 場所：株式会社シシガミカンパニー 森林レンタルサービス（forenta）（東白川村） なかつがわ森の木遊館（中津川市） 内容：・株式会社シシガミカンパニーが事業展開する「森林レンタルサービス（forenta）」の見学とぎふ森フェスのプログラム「施行を手放し心をリセットする森林浴ツアー」を体験 ・令和6年8月に中津川市に開館したぎふ木遊館サテライト施設「なかつがわ森の木遊館」を見学し、運営状況等について運営スタッフと意見交換		

	<p>■第3回（令和7年2月13日（木））</p> <p>議題：第2回岐阜県木の国・山の国県民会議本会（2月7日開催）の報告 森林の新たな価値の創造と山村地域の振興について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林サービス産業の振興について ・「ぎふ木育」の全県展開の取組みについて <p>令和7年度普及・教育部会の取り組み内容について</p> <div> <p>【主な意見】</p> <p>「森林サービス産業の振興について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足元のやらなければならない事業と100年先を目指す事業の両面が必要。森フェスは大変良いと思うが、100年先を見据えた事業も行うべきである。 ・森に入る際の「ルール作り」を進めていただきたい。 <p>「ぎふ木育の全県展開の取組みについて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材利用の観点から高校生や大学生を対象とした木育が重要だと思われる。 ・木育のファンの教師を増やしていくことが重要である。 ・ぎふ木育指導員が学校に行くことで、活動の機会も増えていくのではないかな。 </div>
実施状況	<p>4 取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぎふ木育の全県的な展開に向けた取組みへの提案を行った。 ・ぎふ森フェスの運営や森林サービス産業の今後の展開について、提案を行った。 ・ぎふ木育拠点と森林サービス産業事業地の視察を行った。
今後の課題	<p>5 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校や大学を対象とした「ぎふ木育」のファン獲得に向けた検討 ・観光部局や商工部局などの他部局と連携した岐阜県の森林価値のPR手法の検討